

○「若手農業者への委員として活動」を協議

(南丹市南丹地区(担い手対策)小委員会第3回会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成31年4月9日午前10時~12時
- 場 所: 南丹市役所1号館3F 会議室
- 出席者: 農業委員5人、最適化推進委員4人
- 報告者: 原田清弘 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

○京都府のほぼ中央部に位置し、大半を丹波山地が占め山陰内陸性気候で京都市への通勤圏にあり年々農家数が減少している。水稲作が多くその他麦、豆類が栽培され、京のブランド産品(水菜、壬生菜、九条ねぎ、紫ずきん、黒大豆、小豆)の栽培が盛んである。

○農家戸数の減少、農業従事者の高齢化等が進行する中、農業の持続的な振興及び農地の多面的機能を維持していくためには、担い手の育成・確保が重要な課題である。

3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 各委員が新規就農や担い手への支援制度説明を受けたので、対象となる者には積極的に活用させ経営の安定を図り、地域の担い手なるよう助言する活動を行う。
- 市内の若手農業者の優良事例の調査を行い、委員活動に活かしていく。
- 若手担い手と定期的に交流会を開催して、若手い手同士の交流と課題等意見交換を行う。

4 活動結果

- 情報・意見交換 **2** 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援